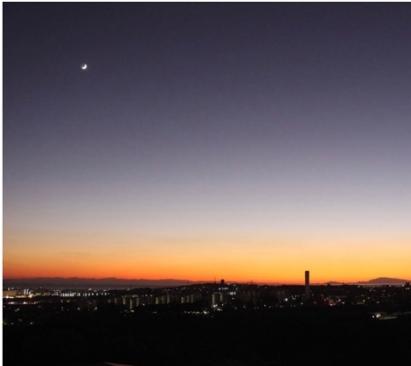




朝礼

スタッフの 今日のひとことコーナー



ふむふむ



皆さんが思う心安らぐ時はどんな時間ですか？
 あれは、仕事が終わりに近づく時間でした。ふと外を見みると、真っ赤な夕焼け空が広がっていました。近くにおられた総務部長と一緒に見に行くと、夕焼け空には虹がかかっていたのです。私は、その光景を見た瞬間に一気に仕事の疲れが吹き飛びました。何とも言えないあの光景が私の癒しの時間となつたのです。

そして、総務部長は、「空を見てるということは心に余裕があるっていうことだよ。」

確かに、最近私は空を見上げる時がなかなか無く、そんな時間の大切さを感じました。空を見上げると、毎日違う景色と癒しがあり、同じ空を見ても人それぞれ感じ方が違うような気がします。

皆さんも、空を見上げて深呼吸し、心に癒しを与える機会をぜひ作つてみて下さい。

(生活相談員 田淵桃香)

清華苑だより

はな 華

2022年1月15日 第68号

発行：社会福祉法人 三幸福祉会 特別養護老人ホーム 清華苑

発行人：施設設立 池田昌弘 編集：SEIKAEN Design Lab
〒674-0051 明石市大久保町大塚 3104番1 TEL 078-934-0800 FAX 078-934-0830 https://seikaen.jp

NO.68



それは、「人志松本の酒のツマミになる話」です。

松本人志が中心となり、参加する芸能人の方が実際

にお酒を飲みながら少し酔った状態で楽しく本音や

大胆な発言が飛び交う番組です。私もお酒を飲みな

がらその場に参加しているつもりで画面を見ています。

9月3日の放送回では、憧れの職業の話になり、20歳から50歳の男女に聞いた「自分では絶対にできない尊敬する職業」のアンケート結果が発表されました。1位は男女ともに医者でした。2位は男性が教師、女性が看護師。男女の3位はともに介護職という結果でした。

私は、正直驚きました。驚きとともにうれしい気持ちになりました。私が仕事を始めた10年前では考えられない結果です。これまでそういったランキングに介護職がランクインしたことはあまりなかつたと思いますし自身も初めて目にしました。少しずつ介護が世間に浸透していることや、コロナ禍で介護現場の様子がメディアで目にする場面もあり世間の方からのイメージが変わったことも要因の一つかもしれません。

しかし、まだ介護職の「大変そう」という世間のイメージは払拭できないのも事実です。私たち職員が世間のイメージを変えること、介護職の本当の魅力を伝えていくことが今後の印象を変えるためには必要だと考えています。

介護職のイメージを変えることができたように現在の印象から10年後の印象をより良いものに変えていくよう自身が介護の魅力を感じながら仕事をしていくことが大事であると感じました。そして、地域に向けて自信を持って発信していくようこれから約10年を過ごしていきたいと思います。

(介護チーフ 藤原亮太)

編集後記

(介護員 江島祐介)

新年あけましておめでとうございます。昨年は、ご利用者ご家族のご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございました。今回はクリスマス会やお屠蘇祝いの素敵な瞬間をお届けするとともに、清華苑で働く職員のエピソードも沢山詰まつた内容となっています。今後も、感染防止対策を徹底しながら、皆様に安心して過ごして頂けるよう、職員一同努めてまいりますので、本年もどうぞ宜しくお願ひいたします。



(生活相談員 田淵桃香)

新型コロナウイルス流行に伴い、今まで当たり前に実施していた行事がほとんどできな い状況が続きました。

季節にちなんだ行事である観桜会や納涼祭、外出行事で喫茶や買い物を楽しむなど、年間を通してたくさんの行事がありました。そのような行事が実施できない中で、「利用者から

「日常での楽しみがない」といった声や、「起きていてもすることがない」と日中でもベッドで過ごされる方が増えているなかで、なんとか行事を再開できないかと職員間で話し合いを重ねてきました。

新型コロナウイルスの感染者数の減少、緊急事態宣言が解除された事に伴い、密を避けた空間・時間の短縮など感染予防対策を徹底した上で少しずつ行事を再開することが出来るようになりました。

「外に行きたい」とこ利用者からのたくさん

の声を聞きますが、現段階ではまだ外出行事の開催は難しく、「希望に添える事が出来ず残念でなりません。行事に参加されるご利用者の楽しさでいる姿を見るごとに、私たち職員も嬉しくなるので、早く以前の日常に戻れる事を願うばかりです。

ご利用者が笑顔で生活に楽しみを持って過ごして頂けるよう、今後も職員一同知恵を絞り、日常のケアや感染対策と行事の両立を考えていきたいと思います。

(行事企画委員会 久保田千里)

苑・JOY 楽しもう！

エンジョイ





※エピソードに紹介されているご利用者と写真に映られているご利用者は別の方で関係はありません。

事務所を出ると「撮れてる?」「いや音が鳴っていないから撮れない!」とご家族の声が聞こえた。久しぶりの面会の再開でご家族が正面玄関ご利用者と写真を撮っていた。ご家族がご利用者と久しぶりに対面出来たことのうれしさが私達員にも伝わってくる。

「こんなには。」と無沙汰しています。お写真一緒に撮りましょうか?」とご家族にお声掛け撮影させて頂いた。撮影した写真を確認するご家族の横顔は優しい雰囲気で包まっていた。

「やっぱりTV電話では反応があまりわからなかったので、会うのは違いますね。いつもありがとうございました。大変な状況ですが、頑張って下さい」と感謝の言葉を頂いた。

ご利用者はご自身の意思を伝えることが難しかったので、会うのは違いますね。いつもありがとうございました。大変な状況ですが、頑張って下さい」と感謝の言葉を頂いた。

ご利用者ご家族はご利用者に話しかけ、返事を頂いた。

思い出の写真

STAFF VOICE

スタッフボイス

特別養護老人ホーム 清華苑

介護、看護、相談員、調理、事務、それぞれの部署で働くスタッフの生の声をご紹介します。



※エピソードに紹介されているご利用者と写真に映っているご利用者は別の方で関係はありません。

93歳のジュンジ様は食事もほとんど撮ることが出来ず、かなり衰弱し1日のほとんどをベッドで過ごしていました。奥様へもう長くないことを伝え静養室に行くと、その呼吸はこのまま止まってしまうのではないかと思えるほど浅くて弱いものでした。

戦争で満州へ出兵され、終戦後も満州に抑留され、とても丈夫だった身体も今ではやせ衰え往年の面影はありません。それから奥様は毎日お見舞いに来られていました。

でも私の経験上、ジュンジ様がもうすぐしゃべることができなくなるのは間違いないありません。私は、ジュンジ様に向かって「優しい奥様ですね。感謝を伝えたほうがいいですよ」と言うと、ジュンジ様はニヤッと笑うと「どうぞ向いて黙つたままいかにも亭主関白らしい素振りでした。奥様は寂しそうにジュンジ様のほうを見ていました。

次の日、ジュンジ様は意識がなくなり、しばらくして息を引き取りました。ジュンジ様は奥様に「ありがとうございます」と伝えることなく天国に旅立たれましたと思っていました。

93歳のジュンジ様は食事もほとんど撮ることが出来ず、かなり衰弱し1日のほとんどをベッドで過ごしていました。奥様へもう長くないことを伝え静養室に行くと、その呼吸はこのまま止まってしまうのではないかと思えるほど浅くて弱いものでした。

戦争で満州へ出兵され、終戦後も満州に抑留され、とても丈夫だった身体も今ではやせ衰え往年の面影はありません。それから奥様は毎日お見舞いに来られていました。

でも私の経験上、ジュンジ様がもうすぐしゃべることができなくなるのは間違いないありません。私は、ジュンジ様に向かって「優しい奥様ですね。感謝を伝えたほうがいいですよ」と言うと、ジュンジ様はニヤッと笑うと「どうぞ向いて黙つたままいかにも亭主関白らしい素振りでした。奥様は寂しそうにジュンジ様のほうを見ていました。

でも、奥様は最後の言葉でした。おかげで、主人がこの人でよかつたって思つて見送ることができました」奥様はジュンジ様と結婚して幸せだったそうです。

…」つて小さな小さな声で伝えたそうです。

奥様は涙で「それが、最後の言葉でした。おかげで、主人がこの人でよかつたって思つて見送ることができました」奥様はジュンジ様と結婚して幸せだったそうです。

でも、奥様は最後の言葉でした。おかげで、主人がこの人でよかつたって思つて見送ることができました」奥様はジュンジ様と結婚して幸せだったそうです。

奥様は涙で「それが、最後の言葉でした。おかげで、主人がこの人でよかつたって思つて見送ることができました」奥様はジュンジ様と結婚して幸せだったそうです。

奥様は涙で「それが、最後の言葉でした。おかげで、主人がこの人でよかつたって思つて見送ることができました」奥様はジュンジ様と結婚して幸せだったそうです。

…」つて小さな小さな声で伝えたそうです。

奥様は涙で「それが、最後の言葉でした。おかげで、主人がこの人でよかつたって思つて見送ることができました」奥様はジュンジ様と結婚して幸せだったそうです。

でも、奥様は最後の言葉でした。おかげで、主人がこの人でよかつたって思つて見送ることができました」奥様はジュンジ様と結婚して幸せだったそうです。

奥様は涙で「それが、最後の言葉でした。おかげで、主人がこの人でよかつたって思つて見送ることができました」奥様はジュンジ様と結婚して幸せだったそうです。

…」つて小さな小さな声で伝えたそうです。

奥様は涙で「それが、最後の言葉でした。おかげで、主人がこの人でよかつたって思つて見送 paramString = "http://www.miyukifukushikai.jp/seikaen/staffvoice/seikaen.html";

その人らしさを知る

皆様、あけましておめでとうございます。新しい寅年の一年がスタートしました。みなさんはどんな一年にしたいですか。私の目標は1ヶ月1kgダイエットです。去年もチャレンジしたのですが前半と少しすこし後半リバウンドしてしまい、結局4kg減量になりました。

コロナとの共存生活の前は、タイザップ（清華苑の筋トレサークル）に参加したり休みの日は必ずどこかへ出かけ、夜はYouTubeで勉強したりと何かと活動していましたが、コロナで家にいる時間が多くなったことで、まさしく今まで言われていたコロナ太りと化してしまいました。

そんなある時こんな格言を目にしました。

YouTubeで勉強したりと何かと活動していたのですが、コロナで家にいる時間が多くなったことで、まさしく今まで言われていたコロナ太りと化してしまいました。

そんなある時こんな格言を目にしました。

・性格は顔に出る
・生活は体型に出る
・本音は仕草に出る
・清潔感は髪に出る
・ストレスは肌に出る
・気配りは食べ方に出て

など、確かにどれもそうだと思います。何気ない毎日でも働く環境、生活スタイル、置かれている現状、生きてきた年数、経験などから「その人」となるものが構築されいくものなのでしょうが、まさしく個人個人を表しているかのようでおもしろいですね。

認知症の方への対応や、看取り介護においてどんなケアがいいのかを考える時、その人を知るところから始めましょう。

総務部長 田村智之のコラムコーナー

出会いと出逢い

ではいは「出会い」や「出逢い」と書くことがあります。どちらを使うかは書く人によつて様々だと思いますが、個人的には「出会い」がその後に何らかの良い影響を与えてくれることで「出逢い」に変わるのかなと考えています。

そして「出逢い」は人に限らないと思います。人以外にも本や言葉も様々な良い影響を与えてくれます。今回は「出会い」の後、私に良い影響を与えてくれたある本がある言葉との「出逢い」をご紹介したいと思います。

まず、本との出逢いで、以前にもこのコラムで紹介したことがあります、松下幸之助氏の「道をひらく」です。子供の頃から活字が苦手で、絵がある本（マンガ）以外は手に取ることがないまま大人になりましたが、色々と行き詰まる中、救いを求めるようにコンピュータでたまたま手に取ったのが「道をひらく」でした。短い文章で区切られており、活字嫌いの私も苦労せず読めたことがありますが、やはりそこに記された1つ1つの言葉が胸を打ち、心を救い上げてもらったことは今でも鮮明に覚えています。今も打ちのめされたときには自然と手に取っています。

次に、言葉との出逢いでは、仕事で交流を持つようになったフォトジャーナリストの小原一真氏から教えてもらった『自立』は、依存先を増やすことです。この言葉は、脳性まひを抱えながら小児科医として活躍の熊谷晋一郎先生が講演でお話されていたそうです。

（総務部長 田村智之）



は？など、そこにその人らしさを見つけるヒントがあります。

とりえず私は、生活スタイルを見直すことがダイエットへの近道と信じて頑張ります。自分自身を当てはめた時に気付くこと、再発見することがあるかもしれませんね。

今年もつたない文章におつき合いやすくお願いします。

（看護主任 大島さおり）



出会いと出逢い

自立と言えば、誰かに頼らず自分で何ができるようになることではないかと考えがちですが、そうではなくて、困ったときに誰かに頼れる環境を作っていくことが自立へつながる。改めて考えると確かにそうだなとすぐ腑に落ちました。

日々を生きていく際にも、新入職員がひとり立ちを目指す際にも、様々な場面で「自立」を求められることがあります。「頼らない」ではなく「頼る」ことを肯定されたとき、肩の力を少し抜くことができるのではないでしょうか。人はひとりでは生きていけません、色々な出逢いに支えられて歩みを進めることができます。

これからもう一つでも多くの「出会い」が「出逢い」になる日々を過ごし、そして私自身は一人でも多くの方にとっての「出逢い」になれるようになります。

（総務部長 田村智之）

